

学習評価

教師が考える「理想の評価」

評価の負担が大きくなり、生徒のよさを評価する機会が多く持てる、そのような評価。(東京都/私立)

生徒の努力が数値として明確な形で表れる評価。(千葉県/私立)

授業の目的、評価の基準が明確で、生徒の多面的な活動が反映できる評価。(東京都/公立)

生徒が、前向きになり、よりよい学びをつくっていかうという意識を持つきっかけとなる評価。(東京都/公立)

生徒と教師双方の学びに向けての方向性が一致するような評価。(長野県/公立)

出典/『VIEW21』高校版読者モニターへのアンケート結果
(アンケートは、2020年10月にウェブとファクスで実施)

新学習指導要領における学習評価の基本事項 ▶ P.10-11

次につながる学習評価 座談会 ▶ P.12-17

実践事例1 山形県立米沢興譲館高校 ^{こうじょうかん} ▶ P.18-21

実践事例2 愛知県立豊野高校 ^{ゆたかの} ▶ P.22-25

オンライン・ワークショップ 第2回リポート

自校の教師同士の対話を通じて、
「主体的・対話的で深い学び」を考える

▶ P.26-27

生徒の・教師の・自校の・社会の
NEXTを語り合うワークシート

今号の特集のテーマを
自校の教師同士で深める
ツールとして、ご活用ください

▶ P.28-29



このマークのある図版は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<https://berd.benesse.jp>) からダウンロードできます。
「HOME → 教育情報 → 高校向け」をご覧ください。

特集

シリーズ 教育の「これから」を考える ②

次につながる

前号からスタートした、教育の「これから」を考えるシリーズ特集。

第2回となる今号のテーマは「学習評価」だ。

新学習指導要領では、学習評価を生徒の学習改善や教師の指導改善につながるものにしていくよう、その改善が求められている。

具体的な改善点は、観点別学習状況の評価の観点が4観点から3観点到整理されたり、観点別学習状況の評価を充実する観点から、高校の指導要録に各教科・科目の観点別学習状況を記載する欄が設けられることになったりすることなどだが、そうした点に基づいた評価を行う上で、教師はどんな視点を持って、どのようなことに留意することが求められるのだろうか。生徒、そして教師にとっても次につながる学習評価について考えていく。